



©Ken Munakata

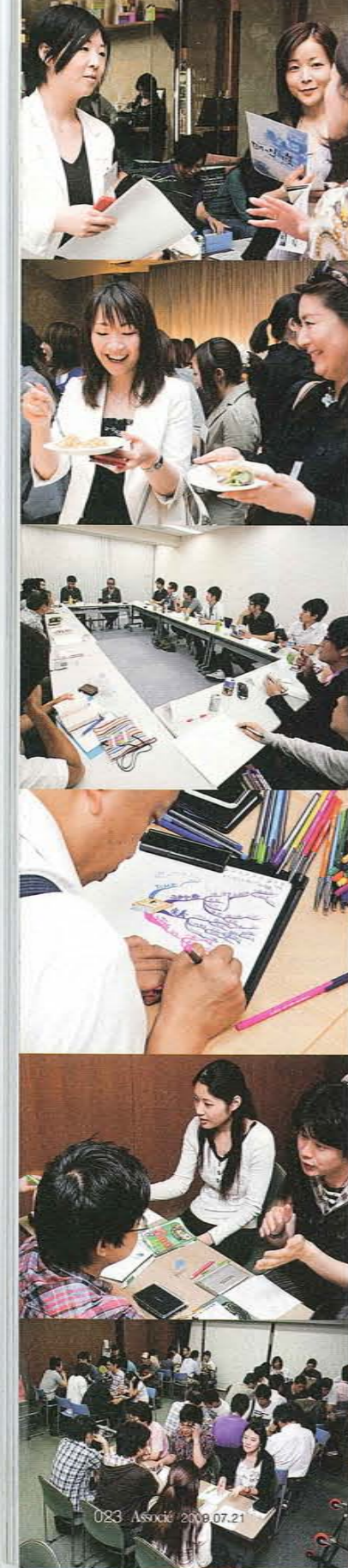
特集1

ブーム到来！刺激、気づき、出会いがある

# 勉強会に行こう！

勉強会がブームの様相を呈している。  
アソシエ読者に限って言えば、参加率は既に3割に達する。  
その魅力は人からの刺激だ。前向きに努力する人たちと同席することで、モチベーションが高まり、学習効果が上がる。  
自分とは異なる経験、発想、価値観、考えに接すれば、職場では得られない気づきがある。  
勉強会はあなたの人生に確実に変化をもたらしてくれる。

文/ 上岡 隆、高島三幸、三橋英之  
写真/ 稲垣純也、菊池くらげ、北山宏一、澤田聖司、鈴木愛子  
イラスト/ 徳光和司





6月5日の講義テーマは「ユダヤ人について」。講義内容を「マインドマップ」にまとめる参加者もいた。今後は対談やディスカッションなど、様々な形式を取り入れる予定だという。



### ビジネスに効く!「旧約聖書」

IRプロデューサーの山陸一幸さんが2008年12月に発足。旧約聖書をキーワードに、世界を動かす人々の宗教的背景を学び、グローバルな視点を養う。毎月1回夜、東京・九段下で開催。入会はMixi内のコミュニティに登録するか、メールで連絡を。連絡先はkazu@continental-breakfast.name



客観的な視点から世界の宗教的背景を学べば、世界各地で起こっている現象がより理解しやすくなる。ちなみに山陸さんは無宗教。



テキストは山陸さんが作成する。本だけでなく、専門家や信者に話を聞き、初心者にも分かるように内容を組み立てる。教えることで、プレゼン力も鍛えられ、本業に役立つという。

に携わった著者の実話を基に、社内でする問題とその解決策をちりばめたフィクションだ。  
感想を言い合ううちに、異業種の仕事の仕方が分かり、自分の意見とは違う視点に刺激を受ける。大手メーカーに勤める40代男性は「ダメな会社ほど危機感がない社員が多い」とは、まさしくうちの会社。部下に読ませたい」と話した。20代女性は「主人公のように、信憑性ある目標数字を掲げて指示してくれると、部下の心も動く」

と、感想を披露した。  
この春、新卒で大手メーカーに入社した男性は、読書会に参加して本の読み方が変わったという。印象深かった個所に線を引き、なぜ自分が共感したのか考える。個人レベルでできる解決策を模索しながら読み進めるようになった。  
勉強法だけでなく、コミュニケーションそのものに魅力を感じている人もいる。「仕事や人生について語り合いたいけど、会社にはそんな場がない。向上心の高い人が集まる場に、居心地の良さを感じている人は多い」と山本さんは語る。

### 旧約聖書を通して世界を学ぶ

「ビジネスに効く!「旧約聖書」は旧約聖書を学ぶ勉強会。旧約聖書そのものを読むことが主眼ではなく、世界の政治経済を動かす人たちの宗教的背景を学び、グローバルな視点を養うことが目的だ。  
なぜ、旧約聖書なのか。「ユダヤ教、キリスト教、イスラム教信者を合わせると、世界人口の6〜7割を占める。キリスト教は新約聖書、イスラム教にはコーランがあるが、諸宗教の母体となるのは旧

約聖書。つまり、世界の6〜7割の人の考え方の根底には旧約聖書があるとと言える。中でも、世界の政治経済を動かす米金融資本はユダヤ教徒が多いため、旧約聖書を理解すれば世界ニュースの見方も変わる」と、IRプロデューサーで主宰者の山陸一幸さんは語る。  
知識がない人でも気軽に参加できるように、「旧約聖書とアメリカ」「ユダヤ人がなぜ世界で重要な位置を占めるのか」など毎回テーマを決め、講義形式にした。「イスラム教基礎講座」はイスラム教徒が講師を務めたが、ほとんどは山陸さんが教える。参加者が満足できる講義にするために、事前準備は入念に行うという。  
「本から得る知識だけでなく、休日に専門家や信者に会い、疑問点を一つひとつ潰していく。アウトプットするために、インプットにはその10倍以上の時間と労力をかけている。一番学ばせてもらっているのは自分かも」  
講義形式だが、質疑応答の時間はもちろん、講義中でも、参加者からの質問や意見が自由に飛び交う様子が印象的だった。

## case 3 1冊の本を みんなで読む

### 「課題本」を肴に議論

優れたビジネス書を読んでも、自分の仕事や生き方に反映できなければ意味がない。1冊の本について語り合うことで、自身に置き換えて考える癖がつく。そして、他人に向けてアウトプットすることで、使える知識が身につく。



6月20日の課題本



### 東京アウトプット勉強会

2006年から続く日本最大の読書クラブ「名古屋アウトプット勉強会」の主宰者、山本多津也さんが、今年2月に東京本部を発足。毎月1回、課題本(ビジネス書)について語り合う。入会はMixi内のコミュニティサイトに登録するか、メールで問い合わせを。次回は7月18日都内で開催予定で、課題本は「すべての経済はバブルに通じる」。今年中に文学の読書会「文学サロン月曜会」東京支部を発足予定。連絡先はnekomachiclub@gmail.com



1チーム15〜18人に、ファシリテーター役が1人つき、参加者全員が本の感想を発表する。本には付箋が貼られていたり、線が引かれていたり、ノートに感想をまとめていたりするなど、事前準備をしっかりしている人が目立つ。読書会の開催後、著者を呼んで講演会を開くこともある。

「どんなに素晴らしいビジネス書を読んでも、一度読んだだけだと内容を忘れてしまう。本の感想を口にし、議論すれば、本から得た知識を自分の中に深く落とし込める」。そう話すのは、読書クラブ「東京アウトプット勉強会」を主宰する山本多津也さんだ。  
名古屋で住宅リフォーム会社を営む山本さんは3年前、友人と4人で読書会を始めた。SNSサイト「Mixi」を使い出したところ、会員数は1600人を突破。今年2月に東京本部のコミュニティを作り、260人が登録する。  
毎月1回開かれるこの読書会の人気の秘密は、「課題本の必読」という参加ルールにある。課題本は、なかなか読む気にならない手強いビジネス書ばかり。だが、毎回参加すれば、こうした本を半強制的に年間12冊読むことになる。  
6月20日18時、読書会が開かれる東京駅そばの貸し会議室には、20代から50代ぐらいの男女45人が集まった。中心は20〜30代。3チームに分かれて議論する。  
今回の課題本は三枝匡氏の「V字回復の経営」。5つの企業再建